

# 1

## 沿革

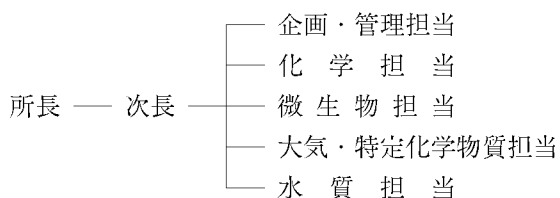
- 昭和26年 7月 予防、環境及び業務の3課に属していた各試験室を統合し、大分県衛生研究所として発足した。
- 昭和28年 8月 大分市寿町に独立した新庁舎が完成した。
- 昭和29年10月 組織改正により庶務及び試験検査2係制となった。
- 昭和33年 4月 組織改正により化学試験及び細菌検査の2課制となった。
- 昭和41年 4月 組織改正により庶務、化学試験及び細菌検査の3課制となった。
- 昭和45年 4月 組織改正により化学試験課及び細菌検査課がそれぞれ部に昇格した。
- 昭和45年 7月 大分市大字曲 芳河原団地に新庁舎が完成した。
- 昭和46年 5月 機構改革により大分県衛生研究所に公害検査部を新設し、1課3部制となった。また、県下の試験研究機関が、公害に関して有機的連携が図られるよう機構が改められ、大分県公害センターが発足し、6部制となり、各試験研究機関の専門者が部長兼務として発令された。
- 昭和48年 3月 大分市大字曲 芳河原団地に公害センター庁舎が完成した。
- 昭和48年 4月 機構改革により10部1課制となり、大分県公害衛生センターとして発足した。
- 昭和52年 4月 組織改正により細菌部が微生物部となった。

- 昭和62年 5月 組織改正により化学部に理化学科と食品衛生科、微生物部に細菌科とウイルス科、大気部に大気科と情報調査科、水質部に水質科と環境生物科を新設して、10部1課8科制となった。
- 平成 3年 5月 衛生環境研究センターに名称が改められ、組織改正により5部及び全科が廃止され、管理部が管理情報部となり、管理課及び企画情報課を設け、技術部門の化学部、微生物部、大気部及び水質部と併せて5部2課制となった。
- 平成12年 3月 特定化学物質分析棟が完成した。
- 平成12年 4月 組織改正により管理情報部が管理部となり、企画情報課が廃止され、新たに企画・特定化学物質部を設け、6部1課制となった。
- 平成14年 4月 組織改正により管理課が廃止され、6部制となった。
- 平成15年 3月 大分市高江西2丁目8番に新庁舎が完成し、芳河原団地から移転した。
- 平成16年 4月 組織改正により企画・特定化学物質部に各試験研究機関の専門者が主幹研究員として兼務配置されていたが、廃止された。
- 平成18年 4月 組織改正により6部制が廃止され、企画・管理担当、化学担当、微生物担当、大気・特定化学物質担当及び水質担当の5担当制となった。

# 2

## 組織及び分掌事務

(1) 組織 平成25年4月1日現在



(2) 分掌事務

○企画・管理担当

- 1 公印の管守に関する事
- 2 文書の収受、発送、編集及び保存に関する事
- 3 職員の身分及び服務に関する事
- 4 庁舎の維持及び管理に関する事

- 5 予算の執行に関する事
- 6 現金、有価証券及び物品の出納命令に関する事
- 7 諸収入の徴収に関する事
- 8 県有財産の維持及び管理に関する事
- 9 衛生及び環境情報の収集及び解析に関する事
- 10 検査及び分析並びに調査研究の調整に関する事
- 11 衛生及び環境教育の技術指導の企画並びに調整に関する事
- 12 研修指導並びに精度管理の企画並びに調整に関する事
- 13 衛生及び環境に係る広報に関する事
- 14 その他、他の担当の所掌に属しない事

○化学担当

- 1 医薬品、毒物、劇物等の試験検査に関する事
- 2 食品衛生及び環境衛生の試験検査に関する事
- 3 衛生化学に係る調査研究に関する事
- 4 食品衛生検査等に係る業務管理に関する事
- 5 衛生化学的試験検査技術の研修及び指導並びに精度管理に関する事

○微生物担当

- 1 病原微生物の試験検査に関する事
- 2 血清学的検査に関する事
- 3 感染症に係る疫学的試験検査に関する事
- 4 食品衛生及び環境衛生に係る微生物学的検査に関する事
- 5 微生物学に係る調査研究に関する事

- 6 食品衛生検査等に係る業務管理に関する事
- 7 微生物学的試験検査技術の研修及び指導並びに精度管理に関する事

○大気・特定化学物質担当

- 1 ばい煙及び粉じんの分析及び解析に関する事
- 2 環境大気の測定、分析及び解析に関する事
- 3 ばい煙発生施設における排ガス並びに燃料の測定及び解析に関する事
- 4 悪臭物質の測定、分析及び解析に関する事
- 5 環境放射能の測定、分析及び解析に関する事
- 6 大気汚染に係る環境の常時監視に関する事
- 7 特定化学物質の分析及び解析に関する事
- 8 大気汚染及び特定化学物質に係る調査研究に関する事
- 9 大気汚染及び特定化学物質の試験検査技術の研修及び指導並びに精度管理に関する事

○水質担当

- 1 公共用水域の水質の分析及び解析に関する事
- 2 工場排水等の水質の分析及び解析に関する事
- 3 水質に係る有害物質の分析に関する事
- 4 水質の生物学的検査に関する事
- 5 汚泥、底質等の調査及び分析に関する事
- 6 廃棄物に係る有害物質の分析に関する事
- 7 温泉の分析に関する事
- 8 水質汚濁に係る調査研究に関する事
- 9 水質環境の試験検査技術の研修及び指導並びに精度管理に関する事

## 3 職員

職員配置表

平成25年5月1日現在

組織別	種別	事務吏員	技術吏員	非常勤嘱託	臨時職員	計	備考
所	長		1			1	
次	長	1				1	
企 画・ 管 理 担 当		4		2	1	7	
化 学 担 当			6	1	1	8	
微 生 物 担 当			7	1		8	
大気・特定化学物質担当			6	1	2	9	
水 質 担 当			5	2	1	8	
	計	5	25	7	5	42	

## 4

## 施設

○所在地

大分市高江西2丁目8番

○敷地面積

13,238.82㎡

○建物構造面積

①研究棟

鉄筋コンクリート3階建

面積 2,284.91㎡ (延面積5,255.35㎡)

②附属棟

設備棟、車庫、倉庫等

延床面積(合計) 367.54㎡

○完工期日

平成15年2月10日

○工事費総額

2,038,190千円

## 5

## 経理執行の状況

(1) 平成24年度歳入調書

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 済 額	収 入 未 済 額
(款) 使用料及手数料	232,004	232,004	0
(項) 使 用 料	70,564	70,564	0
(目) 総務使用料	70,564	70,564	0
(節) 庁舎等使用料	70,564	70,564	0
(項) 手 数 料	161,440	161,440	0
(目) 保健環境手数料	0	0	0
(節) 衛生免許試験その他手数料	0	0	0
(目) 証紙収入	161,440	161,440	0
(節) 証紙収入	161,440	161,440	0
(款) 財 産 収 入	0	0	0
(項) 財産売払収入	0	0	0
(目) 物品売払収入	0	0	0
(節) 物品売払収入	0	0	0
(款) 諸 収 入	424,806	424,806	0
(項) 受託事業収入	287,190	287,190	0
(目) その他受託事業収入	287,190	287,190	0
(節) 大気分析調査事業分	0	0	0
(節) 衛生試験検査事業分	287,190	287,190	0
(項) 雑 入	137,616	137,616	0
(目) 雑 入	137,616	137,616	0
(節) 健康対策課所属	0	0	0
(節) 環境保全課所属	7,441	7,441	0
(節) 生活環境企画課所属	130,175	130,175	0
合 計	656,810	656,810	0

(2) 平成24年度歳出調書

節	目名	人事課		福祉保健 企画課	健康対策課	医療政策課
		職員厚生費	人事管理費	社会福祉 総務費	予防費	薬務費
報	酬	268,800				
共	済					
賃	金					
報	償		144,000			
旅	費		200,220		415,880	120,000
交	際					
需	用	203,000	61,565	47,806	9,582,045	96,000
	食糧		5,000			
	その他需用費	203,000	56,565	47,806	9,582,045	96,000
役	務	1,500			28,810	
委	託					
使	用					
工	事					
備	品					
負	担					
公	課					
合	計	473,300	405,785	47,806	10,026,735	216,000
予算執行の状況	令 達 予 算 額	473,300	405,785	47,806	10,026,735	216,000
	支 出 済 額	473,300	405,785	47,806	10,026,735	216,000
	予 算 残 額	0	0	0	0	0

(単位：円)

生活環境企画課			環境保全課	廃棄物 対策課	食品安全・衛生課		漁業管理課	計
温泉費	センター費	公害対策費	公害対策費	環境整備 指導費	食品衛生 指導費	環境衛生 監視費	水産振興費	
	13,865,624							14,134,424
	3,210,175		227,430					3,437,605
	6,351,763		1,457,124					7,808,887
	34,700							178,700
14,000	2,316,068		1,067,180	80,360	477,050	55,140	78,000	4,823,898
								0
393,000	23,155,993	560,000	24,078,710	3,000,000	10,998,597		353,000	72,529,716
	43,000							48,000
393,000	23,112,993	560,000	24,078,710	3,000,000	10,998,597		353,000	72,481,716
	1,295,787		188,325					1,514,422
	13,890,028		22,465,848		5,147,310			41,503,186
	50,500	63,722	164,506					278,728
								0
	13,647,545		564,900	4,609,500				18,821,945
	352,550							352,550
	14,200							14,200
407,000	78,184,933	623,722	50,214,023	7,689,860	16,622,957	55,140	431,000	165,398,261
407,000	78,184,933	623,722	50,214,023	7,689,860	16,622,957	55,140	431,000	165,398,261
407,000	78,184,933	623,722	50,214,023	7,689,860	16,622,957	55,140	431,000	165,398,261
0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 6

## 主要機器

## (1) 化学担当

品目	取得年月日	メーカー	型式	備考
固相抽出システム	H 6. 6.10	日本ミリポア	S.P.C.CONT	
ガスクロマトグラフ	H 8.11.27	ヒューレットパッカード社	HP-6890	NPD,FID
ガスクロマトグラフ質量分析装置	H 9. 2.24	ヒューレットパッカード社	HP6890 MSD	
ガスクロマトグラフ	H 14. 2.19	(株)島津製作所	GC-2010	FPD,FTD
高速液体クロマトグラフ質量分析装置	H 15. 3.16	アプライドバイオシステムズ社	API-2000	
超高速冷却遠心機	H 15. 3.25	KOKUSAN	H-9R	
質量検出器 (MS分析計)	H 17. 2. 1	日本ウォーターズ(株)	ZQ2000	
ガスクロマトグラフ質量分析計	H 18. 2.10	アジレントテクノロジー	Agilent 5975 inert.MSD	
高速液体クロマトグラフ装置 (MS/MS・PDA)	H 21. 9. 7	アジレントテクノロジー	HPLC1200 MS/MS6460A	MS/MS,PDA
超純水製造装置	H 21.11.30	ヤマト科学	オートピュア WR700	
有機化合物クリーンアップGPCシステム	H 21.12.18	ジーエルサイエンス(株)	G-PREF GPC8100single	
分光光度計	H 24. 9.19	(株)日立ハイテクノロジーズ	U-2900	オートシッパ
純水製造装置一式	H 24. 9.20	メルク株式会社	Elix Advantage 15	100L

## (2) 微生物担当

品目	取得年月日	メーカー	型式	備考
万能写真顕微鏡	S 61. 9. 1	日本光学工業	MICROPHOT-FX-2	
バイオハザード対策システム	S 63. 3.28	新興精機	特注	P3
パルスフィールド泳動装置	H 10. 3.31	日本バイオラッドボラトリズ	CHEF-DR IIIチラーシステム	
蛍光微分干渉顕微鏡	H 10. 9. 1	(株)ニコン	E8-FL-DIC	
遺伝子増幅装置	H 12. 8. 2	MJ RESEARCH	RCT-225DNAエンジンテラッド	
電子顕微鏡	H 15. 3.27	日本電子	JEM-1230,JSM-6360LV	
リアルタイムPCR装置	H 17.12.26	ロッシュ・ダイアグノスティックス	Light Cycler DX400	
遺伝子取り込み・解析装置	H 19.11.26	バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)	GelDocXR/WindowsP	
ジェネティックアナライザ	H 20.12.25	アプライドバイオシステムズジャパン(株)	3130 xl-100	
遺伝子増幅装置	H 21.10. 1	日本バイオラッドボラトリズ	PTC-240	
パルスフィールド泳動装置	H 21.10. 1	日本バイオラッドボラトリズ	CHEF-DR IIIチラーシステム	
リアルタイムPCR装置	H 21. 9.24	アプライドバイオシステムズジャパン(株)	StepOnePlus-01	
超高速遠心機一式	H 22. 3.16	日立工機株式会社	CW80WX	

## (3) 大気・特定化学物質担当

品目	取得年月日	メーカー	型式	備考
大気汚染観測用コンテナ	S 61. 8.15	矢野特殊自動車	特注	別府青山中学校設置
位相差顕微鏡	S 63. 8. 8	カールツァイス	Axioskop40	デジタルカメラ付き
硫黄分析計	H 2.12. 5	理学電機工業(株)	サルファ X	
校正用ガス調製装置	H 10.12. 2	電気化学計器(株)	CGS-12型	
マイクロウェーブ分解装置	H 11. 3.23	マイルストーン	ETOHOS1600	IC-MS用試料分解、濃縮
自動ソックスレー抽出装置	H 12. 2.10	柴田科学(株)	B-811	3台
高分解能ガスクロマトグラフ質量分析装置	H 12. 3.15	日本電子(株)	JMS-700D	
大気汚染観測用コンテナ	H 12. 3.31		特注	西部振興局設置
電気炉	H 15. 2.28	アドバンテック東洋(株)	KM-1000S	文部科学省備品
イオンクロマトグラフ	H 15. 3.20	日本ダイオネックス(株)	DX-120	電気伝導度計
窒素酸化物測定装置	H 15. 3.28	東亜ディーケーケー(株)	GLN-254	南部振興局設置
自動ソックスレー抽出装置	H 15. 6.13	柴田科学(株)	B-811	
窒素酸化物測定装置	H 16. 3.12	東亜ディーケーケー(株)	GLN-254	白杵市役所設置
硫黄酸化物測定装置	H 16. 3.12	東亜ディーケーケー(株)	GFS-212J	大気環境測定車に搭載
一酸化炭素測定装置	H 16. 3.12	東亜ディーケーケー(株)	GIA-272H (S)	大気環境測定車に搭載
オキシダント測定装置	H 16. 3.12	東亜ディーケーケー(株)	GUX-213J	大気環境測定車に搭載
データ収録処理装置	H 16. 3.12	東亜ディーケーケー(株)	DNS309 (S)	大気環境測定車に搭載
浮遊粒子状物質測定装置	H 16. 3.12	東亜ディーケーケー(株)	DUB-222	大気環境測定車に搭載
窒素酸化物測定装置	H 16. 3.12	東亜ディーケーケー(株)	GLN-214J	大気環境測定車に搭載
オキシダント測定装置	H 18. 1.25	東亜ディーケーケー(株)	GUX-253	日出町鷹匠設置
オキシダント測定装置	H 18. 1.25	東亜ディーケーケー(株)	GUX-253	西部振興局設置
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 18. 6.30	東亜ディーケーケー(株)	GFS-256	西部振興局設置
窒素酸化物測定装置	H 18.12. 8	東亜ディーケーケー(株)	GLN-254	別府青山中学校設置
VOC分析用前処理装置	H 19. 3.16	エンテック社	7100A/4600A/3100A	
γ線核種分析ソフト及びデータ処理装置	H 19. 9. 7	キャンベラジャパン(株)		文部科学省備品
窒素酸化物測定装置	H 19.10. 2	東亜ディーケーケー(株)	GLN-254	西部振興局設置
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 19.10. 2	東亜ディーケーケー(株)	GFS-256	別府青山中学校設置
液体窒素蒸発散防止装置	H 19.11.30	キャンベラジャパン(株)	CA201	文部科学省備品
ガスクロマトグラフ質量分析装置	H 19.12.28	アジレント・テクノロジー(株)	Agilent 5975C MSD	
ベータ線自動測定装置	H 20.10.15	アロカ(株)	JDC-3201	文部科学省備品
オキシダント測定装置	H 21. 3.27	東亜ディーケーケー(株)	GUX-353	別府青山中学校設置
オキシダント測定装置	H 21. 3.27	東亜ディーケーケー(株)	GUX-353	中津総合庁舎設置
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 21. 3.27	東亜ディーケーケー(株)	GFS-327	白杵市役所設置
窒素酸化物測定装置	H 21. 3.27	東亜ディーケーケー(株)	GLN-354	日出町鷹匠設置
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 21. 5.29	東亜ディーケーケー(株)	GFS-312	豊肥保健所設置
窒素酸化物測定装置	H 21. 5.29	東亜ディーケーケー(株)	GLN-354	豊肥保健所設置
オキシダント測定装置	H 21. 5.29	東亜ディーケーケー(株)	GUX-313	豊肥保健所設置
モニタリングポスト	H 21.10. 1	アロカ(株)	MAR-22	文部科学省備品
ガスクロマトグラフ(悪臭等分析装置)	H 21.11.27	アジレント・テクノロジー(株)	7890A	FPD, FID
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 22. 2.10	東亜ディーケーケー(株)	GFS-327	南部振興局設置
オキシダント測定装置	H 22. 3.10	東亜ディーケーケー(株)	GUX-353	白杵市役所設置
オキシダント動的校正装置	H 22. 1.20	東亜ディーケーケー(株)	GUX-313,OZ-200	
γ線核種分析装置(Ge半導体検出器)	H 23. 3.25	キャンベラジャパン(株)	GC3018	文部科学省備品
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 23. 3.31	東亜ディーケーケー(株)	GFS-327	日出町鷹匠設置
窒素酸化物測定装置	H 23. 3.31	東亜ディーケーケー(株)	GLN-354	中津総合庁舎設置
超純水製造装置	H 23. 9.28	アドバンテック東洋(株)	RFU665DA, RFP742HA	
オキシダント測定装置	H 23.10.31	東亜ディーケーケー(株)	GUX-353	南部振興局設置
オキシダント測定装置	H 23.10.31	東亜ディーケーケー(株)	GUX-353	津久見市役所設置
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 24. 3. 8	東亜ディーケーケー(株)	GFS-327	中津総合庁舎設置
γ線核種分析装置	H 24. 3. 9	キャンベラジャパン(株)	GC3018	文部科学省備品
モニタリングポスト	H 24. 3.27	日立アロカメディカル(株)	MAR-22	文部科学省備品、4台
サーベイメーター	H 24. 3.27	日立アロカメディカル(株)	TCS-171B	文部科学省備品、3台
気中水銀測定装置	H 24. 9.27	日本インストルメンツ(株)	マーキュリー WA-4	
硫黄酸化物・浮遊粒子状物質測定装置	H 25. 2.12	東亜ディーケーケー(株)	GFS-327	津久見市役所設置
窒素酸化物測定装置	H 25. 2.12	東亜ディーケーケー(株)	GLN-354	津久見市役所設置
微小粒子状物質自動測定装置	H 25. 2.14	東亜ディーケーケー(株)	FPM377-2	西部振興局設置
大気環境測定車「ほしぞら号」	H 25. 3.18	日野自動車		

## (4) 水質担当

品目	取得年月日	メーカー	型式	備考
携帯型ラドン計	S 60. 8.23	EDA社	RD-200	
自記分光光度計	H 1.12.25	日本分光工業(株)	Ubest-50	
超音波ネブライザー	H 7. 9.13	日本ジャーレルアッシュ(株)	U-5000AT	
元素分析計	H 7.11.22	ヤナコ分析工業(株)	MT-5	
分光光度計	H 8.10.30	日本分光工業(株)	V-550DS	
冷却高速遠心機	H 13. 1.15	コクサン	H-2100M <sub>2</sub>	
水分析用自動固相抽出装置	H 13. 1.23	ジーエルサイエンス	ASPE-599	
ICP 発光分光分析装置	H 15.12.15	サーモエレクトロン(株)	IRI SIntrepid II XSP	
ガスクロマトグラフ質量分析計	H 19. 3.29	日本電子(株)	JMS-Q1000GC (GC/MS/EI)	水素発生装置付き
原子吸光分析装置	H 19. 3.30	サーモエレクトロン(株)	SOLAAR S-2	水素化物発生装置付き
還元気化水銀測定装置	H 19.11.14	日本インストルメント(株)	マーキュリー RA-3320	
ガスクロマトグラフ質量分析計	H 19.11.15	日本電子(株)	JMS-Q1000GC	
pH自動測定器	H 20.11.13	東亜ディーケーケー(株)	MM-60R 型他	多検体pH、EC測定装置
全有機態炭素分析計	H 20.12. 9	(株)島津製作所	TOC-V <sub>cus</sub>	
ガスクロマトグラフ分析計	H 20.12.15	アジレント・テクノロジー社	7890GC (ECD)	ECD 検出器
水質自動分析計(オートアナライザー)	H 21. 9.30	ビーエルテック(株)	SWAAT,QuAAtro2-HR	分光光度計付き
ICP 質量分析装置	H 22.12.22	サーモサイエンティフィック	X シリーズ 2	
イオンクロマトグラフ	H 23.11. 8	日本ダイオネックス(株)	ICS1600	電気伝導度計
高速液体クロマトグラフ	H 24.10.17	(株)島津製作所	RF-20	



**(1) 企画・管理担当**

企画・管理担当は、予算執行等の管理的業務とともに、調査研究に関する総合調整及び評価、衛生及び環境教育の技術指導に関する企画・調整、衛生及び環境情報の収集及び解析、研修指導及び精度管理に関する企画・調整、衛生及び環境に係る広報等を主な業務としている。

これらの業務の概要は、次のとおりである。

**ア 調査研究の調整及び評価**

センターで実施する調査研究の総合調整をするともに、提出された新規課題、継続課題、終了課題について、それぞれ評価要綱に基づき内部評価、外部評価を実施した。また終了課題について結果報告会を行った。

**イ 環境・衛生教育**

環境月間に地元の小学校3年生を対象に、実習や施設見学を通して環境や健康の大切さを学ぶ体験学習を行った。

また、各種団体からの依頼による体験学習や実技研修の受け入れも行った。

**ウ 情報の整備**

所内LANを構築し、同時に複数のクライアントからサーバ上のデータを利用することができるようになり、業務の効率化が図られている。

関係担当において、これまでに次のシステムを開発し、これらのシステムの改良やデータの更新等の運用・管理が行われている。

- ①温泉情報データベース
- ②公共用水域水質測定管理
- ③地下水水質測定管理
- ④大気常時測定結果管理
- ⑤酸性雨測定結果管理
- ⑥図書管理
- ⑦備品管理
- ⑧関係機関住所録
- ⑨公用車予約管理
- ⑩地方衛生研究所業績集検索
- ⑪会議室・分析機器の予約管理

**エ 広報**

広報誌「衛生環境研究センターだより」は、トピックスとして「RSウイルスについて」及び「モニタリングポストのオンライン化」、調査研究の紹介として「河川中のダイオキシン類発生源寄与の解析について」並びに学位報告などの内容を掲載しており、県内各保健所、市町村等関係機関に配布した。

また、衛生環境研究センターのホームページを運営し、当センターの施設や業務の紹介、感染症情報等について情報提供している。また、調査研究の課題及び外部評価結果、研修指導など時期に応じて速やかに更新を行った。

(URL <http://www.pref.oita.jp/soshiki/13002/>)

**(2) 化学担当**

化学担当は、食品衛生法、薬事法、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律などに基づく行政検査や依頼検査のほか、それぞれの分野に関連した調査研究、研修指導等を主たる業務としている。

これらの業務の概要は、次のとおりである。

**ア 食品衛生に関する業務****(ア) 行政検査**

食品衛生法に基づき食品安全・衛生課が策定した大分県食品衛生監視指導計画により、県特産食品、県内広域に流通する食品、輸入食品を重点に、以下の項目について、県下5ブロックの食品衛生監視機動班が収去・搬入した食品及び食中毒、違反・苦情食品の検査を行う。

**a 残留農薬**

県産或いは輸入野菜・果物等に残留する農薬の検査を30検体で行った。また、一斉試験法の測定項目の拡大を随時検討し、現在では246項目298成分が測定可能である。

**b 動物用医薬品（合成抗菌剤、抗生物質等）**

市販されている食肉、鶏卵、養殖魚介類等に残留する合成抗菌剤及び抗生物質等の検査を110検体で行った。現在では90項目109成分が測定可能である。

**c 食品添加物**

市販されている県産の漬物等について、合成保存料（ソルビン酸、安息香酸等）や漂白剤、甘味料、発色剤の検査を70検体で行った。

#### d 特定原材料（アレルギー物質）検査

アレルギー物質7品目（乳、卵、小麦粉、そば、落花生、えび、かに）を使用している場合は、その旨を表示する義務がある。流通している食品で使用表示のない30検体について検査を行った

1件の米粉の検査でそば混入違反事例があった。

#### (イ) 委託業務等

##### 貝類毒化モニタリング検査

漁業管理課からの委託を受け、年間計画に基づきヒオウギガイ、アサリ、カキ、イワガキ等について麻痺性貝毒の検査を9検体行った。

#### イ 家庭用品に関する業務

薬務室の行政検査として、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づき、市販の乳幼児用衣類おむつ、下着等に使用されているホルムアルデヒドの残留量検査を15検体について行った。

#### ウ 薬事に関する業務

GMP（医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準）調査要領に基づき、組織や品質マニュアル等を整備し公的認定検査機関としてその認定を受けた。

#### エ 食品衛生検査施設における検査等の業務管理（GLP：Good Laboratory Practice）

内部点検標準作業書（SOP：Standard Operating Procedure）に基づき、信頼性確保部門責任者による内部点検を実施している。

#### オ 外部精度管理

食品衛生外部精度管理事業として、食品薬品安全センター秦野研究所が実施している外部精度管理に参加し、食品添加物（ソルビン酸）、動物用医薬品（スルファジミジン）及び農薬6成分（チオベンカルブ、マラチオン、クロルピリホス、テルブホス、フルシトリネート、フルトラニル）中3成分について精度管理を実施している。

表1 平成24年度業務実績（化学担当）

区 分		検 体 数	成 分 数
項 目			
総 件 数		557	28,150
◎行 政 検 査			
食 品 衛 生	残 留 農 薬	30	5,984
	動 物 用 医 薬 品	110	7,421
	食 品 添 加 物	70	305
	ア レ ル ギ ー 物 質	30	30
	カ ビ 毒	0	0
	そ の 他	0	0
計		240	13,740
薬 事 衛 生		0	0
家 庭 用 品		15	15
小 計		255	13,755
◎委 託 業 務 検 査			
貝 毒 モ ニ タ リ ン グ ( 漁 業 管 理 課 )		9	9
小 計		9	9
◎依 頼 検 査			
食 品 衛 生		2	2
そ の 他	メ ラ ミ ン 等	0	0
小 計		2	2
◎調 査 研 究			
残 留 農 薬 ・ 動 物 性 医 薬 品		100	4,081
危 機 管 理 対 策		3	8
食 品 添 加 物		34	338
精 度 管 理 ・ 妥 当 性 評 価		154	9,957
小 計		291	14,384

### (3) 微生物担当

微生物担当の業務は、細菌、ウイルス、リケッチア、及び血清免疫学等に関する各分野の行政検査、委託業務検査、依頼検査、調査研究並びに検査技術の研修・指導などである。

行政検査では、感染症、食中毒、収去食品等の検査、公共用水域並びに海水浴場等の水質検査、及び保健所からの依頼による検査を行っている。

委託業務検査では、厚生労働省の感染症流行予測事業、大分市（中核市）との委託契約に基づく食品

等の微生物学的検査を行っている。

依頼検査では、つつが虫病等の血清学的検査などを行っている。

調査研究では、感染症・食中毒の疫学等に関する研究や、新しい検査方法の開発・導入に関する研究等に取り組んでおり、その一部は国や地方衛生研究所等との共同研究（分担研究、研究協力を含む）である。

研修・指導業務では、主に保健所の検査担当者を対象として検査実技等の研修を行うとともに、大分県試験検査精度管理事業実施要綱に基づき微生物部門の精度管理を実施している。また、大分県衛生環

境研究センター研修生取扱要綱に基づき県内の臨床検査技師専門学校で臨地実習等を行っている。

このほか、大分県健康対策課に設置している大分県感染症情報センターに関して、感染症情報の収集・解析・還元等の業務支援を行っている。

## 1 感染症

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施している大分県感染症発生動向調査事業における全数把握疾病では、2012年は結核301人、細菌性赤痢1人、腸管出血性大腸菌感染症40人、A型肝炎1人、つつが虫病12人、デング熱1人、マラリア1人、レジオネラ症8人、アメーバ赤痢6人、ウイルス性肝炎2人、急性脳炎7人、クロイツフェルトヤコブ病3人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人、後天性免疫不全症候群7人、梅毒1人、破傷風4人、及び風しん6人の報告があった。

当所では同調査事業の一環として、検査定点で採取した臨床検体からの原因微生物検索を行っており、細菌関係は主に溶血レンサ球菌感染症及び感染性胃腸炎の検体を検査している。溶血レンサ球菌感染症では、2012年は220検体を検査し、166検体(75.5%)からA群164株、C群4株、G群菌1株の溶血レンサ球菌を分離した。A群菌のT型別では、T-4型が36.0%と最も多く分離された。感染性胃腸炎では、2012年は44検体を調べ、23検体(52.3%)から26株の下痢起因細菌を検出した。その内訳はサルモネラ属菌13株、カンピロバクター5株、黄色ブドウ球菌4株、エロモナス2株、病原大腸菌1株、エルシニア1株であった。ウイルス関係は、インフルエンザ様疾患、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎等の患者の検体409件の検査依頼があり、インフルエンザウイルスAH3型99件、ノロウイルスGⅡ19件、ライノウイルス18件、インフルエンザウイルスB型16件など248件のウイルスを検出した。

ウイルス性胃腸炎の集団感染事例は1事例7検体を検査し、7検体からノロウイルスGⅡ型を検出した。

## 2 食中毒

微生物による食中毒が疑われた検査は21事例で、そのうち細菌関係は8事例を検査し、1事例からセレウス菌を検出した。ウイルス関係は22事例を検査し、12事例からノロウイルスを、1事例からサポウイルスを検出した。寄生虫関係は2事例を検査し、

1事例からクドアを、1事例からザルコシステイスを検出した。このうちノロウイルス5事例が、微生物を原因とする食中毒事件となった(大分市を除く)。

## 3 感染症流行予測事業等

厚生労働省の感染症流行予測事業に基づき、県産豚の血液による日本脳炎の感染源調査を行った。2012年のHI抗体陽性率50%突破時期は8月22日採血豚において認められた。日本脳炎ウイルスは、8月1日採血豚で初めて分離された。

## 4 インフルエンザ

2012年48週(11/28-12/4)から患者が増加し始め、2013年5週(1/28-2/3)にピークに達した後、21週(5/20-5/26)に終息する流行パターンを示した。2012年10月からの2013年5月までのウイルス検出状況は、AH3型72件、B型9件で、AH3型が主な原因ウイルスであった。

## 5 食品検査

大分県食品衛生監視機動班等が収去した食品160検体について、食中毒起因菌及び抗生物質、二枚貝のノロウイルス等を検査した。食用肉では70件中16件から黄色ブドウ球菌、カンピロバクター、サルモネラ属菌、リステリア菌が検出された。県産ミネラルウォーターは20件検査し、6検体から一般細菌が検出された。二枚貝は10件検査し、3件からノロウイルスが検出された。

## 6 水の検査

水質汚濁防止法等に基づいて公共用水域、海水浴場、公衆浴場等の微生物検査を実施している。2012年度の総件数は366検体で、公共用水域の検査がその大部分を占めている。公衆浴場のレジオネラは、55検体を検査した。

## 7 血清学的検査

### 1) リケッチアに対する抗体検査

本県におけるつつが虫病患者は例年10月から11月を中心に発生しているが、2012年度は疑い患者16人の検査依頼があり、6人が有意の抗体上昇を示して、つつが虫病と診断された。

### 2) HIV抗体等の検査

大分県HIV抗体検査実施要領に基づくHIV抗体

の確定検査等を1件実施し、陰性であった。また、大分県B型肝炎感染防止対策実施要綱による保健所職員等のHBs抗原・抗体222件を検査した。2007年度からクラミジアとHCVの検査を大分県特定感染症検査事業として実施しているが、2012年度はクラミジア96件の検査を行った。

## 8 調査研究

細菌関係では、「レジオネラ対策に係る公衆浴場

等の効果的衛生管理手法に関する研究」等3題の調査研究に取り組んだ。ウイルス・リケッチア関係では、「急性呼吸器感染症における健康危機管理対応」等2題の研究課題に取り組んだ。

## 9 研修指導

保健所や食肉衛生検査所の検査担当者を主体に、検査業務に関する実技研修や精度管理を実施した。また、臨床検査技師専門学校での臨地実習を行った。

表2 平成24年度業務実績（微生物担当）

区 分	検 体 数	成 分 数
項 目		
総 件 数	3,982	10,175
◎行政検査		
(病原体分離・同定・検出)		
感染症	832	4,375
食中毒	172	909
食品	193	615
水質検査	420	562
(血清検査)		
エイズ	0	0
B型肝炎	222	222
小 計	1,839	6,683
◎委託業務検査		
感染症流行予測調査	160	260
食中毒・食品・血清等（大分市）	3	15
小 計	163	275
◎依頼検査		
(病原体分離・同定・検出)		
飲用水	0	0
(血清検査)		
つつが虫病	16	160
小 計	16	160
◎調査研究		
共同研究	1,501	2,134
感染症疫学調査研究	213	266
食中毒病原体調査研究	131	419
検査法開発導入調査研究	119	238
小 計	1,964	3,057

#### (4) 大気・特定化学物質担当

大気・特定化学物質担当は、大気汚染や特定化学物質、悪臭等の環境保全対策に資するため、法律等に基づく行政検査、委託検査業務並びに調査研究業務を主たる業務としている

##### ア 行政検査

###### (ア) 大気汚染の常時監視

大気汚染防止法に基づき、昭和46年度からテレメータシステムで監視を行っている。平成24年度は、大気汚染状況の常時監視を7市1町の8か所においてオンラインシステムで二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント及び風向・風速を測定している。

なお、微小粒子状物質を2月から1箇所測定を始めた。

###### (イ) 交通環境・一般環境の大気測定調査

常時監視測定局が設置されていない道路沿道などの地域の大気汚染物質濃度（二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、一酸化炭素、光化学オキシダント）の実態を把握するため、例年行うが、大気環境測定車の更新に伴い平成24年度は、おこなっていない。

###### (ウ) 有害大気汚染物質調査

大気汚染防止法に基づき、平成9年度から一般環境等における揮発性有機化合物（VOC）等の有害大気汚染物質についてモニタリング調査を行っている。平成24年度は、行政検査により5市の一般環境等において最大15項目の調査を行った。

###### (エ) 浮遊粉じん調査

浮遊粉じんによる大気の汚染状況を把握するため、平成24年度は、行政検査により重金属成分等の調査を1市の固定発生源周辺で行った。

###### (オ) 特定化学物質調査

ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、平成12年度から環境大気、公共用水域水質（河川、海域及び湖沼）、底質（河川、海域及び湖沼）、地下水及び土壌中のダイオキシン類の分析を行っている。平成24年度は、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく行政検査によるものが41検体であった。

###### (カ) 悪臭物質等調査

悪臭等防止対策の資料とするため、平成24年度は、旧産業廃棄物最終処分場1カ所におけるアンモニア、硫黄化合物等の調査を行った。

##### イ 委託検査業務

###### (ア) 国設酸性雨測定所の管理運営

酸性雨による大気汚染の実態を把握するため、環境省の委託を受け、平成6年度から、竹田市久住町の阿蘇くじゅう国立公園の区域内に設置された国設酸性雨測定所の管理運営を行っている。平成24年度も引き続き、同所における気象データの収集を行うと共に雨水のpH、電気伝導率（EC）測定と成分分析を行った。

###### (イ) 環境放射能調査

放射能のバックグラウンドを測定し、環境放射能の水準を把握するため、文部科学省の委託を受け、昭和62年度から調査を行っている。平成24年度も引き続き、定時降水中のβ線や、モニタリングポストにより空間放射線量率の測定を行うとともに、大気浮遊じん、降下物、土壌、野菜、牛乳等のγ線を測定し、環境中に存在する放射性核種の調査を行った。

##### ウ 調査研究

平成3年度から全国環境研協議会の酸性雨全国調査に参加している。

また、県内における酸性雨の実態と推移を把握を目的として、大分市、日田市、竹田市久住町において昭和60年度から継続的に調査を行っているほか、平成21年度から24年度にかけ、硫酸塩について九州各県と共同調査を行った。

表3 平成24年度業務実績（大気・特定化学物質担当）

区 分 項 目	検 体 数	成 分 数
総 件 数	803	22,960
◎行政検査		
大気汚染常時監視	96	17,483
交通環境・一般環境調査	0	0
有害大気汚染物質調査	120	744
浮遊粉じん調査	12	60
ダイオキシン類調査	41	1,599
悪臭物質等調査	2	44
その他	4	48
小 計	275	19,978
◎委託業務検査		
酸性雨調査（環境省）	50	496
環境放射能調査（文部科学省）	217	359
小 計	267	855
◎依頼検査		
小 計	0	0
◎調査研究		
酸性雨調査	170	2,036
共同研究、共同調査	91	91
小 計	261	2,127

## (5) 水質担当

水質担当は、水質汚濁防止法、廃棄物及び清掃に関する法律、温泉法に基づく行政検査、委託業務検査、依頼検査並びに調査研究を主たる業務としている。

### ア 行政検査

(ア) 測定計画による調査（公共用水域及び地下水の水質調査）

公共用水域の水質測定は、昭和46年度から水質汚濁防止法に定める測定計画に基づいて実施している。平成24年度は県担当分の39河川57地点、2湖

沼6地点において生活環境項目（8項目）、健康項目（26項目）、要監視項目（24項目）、水生生物保全項目（4項目）、特定項目（1項目）、特殊項目（5項目）及びその他項目（7項目）について年6～12回の測定を行った。

また、地下水の水質測定は、測定計画に基づき県担当分の65井戸において環境基準項目（26項目）、要監視項目（23項目）及びその他項目（7項目）について年1～2回の測定を行った。

### (イ) 海水浴場水質調査

県下の主要海水浴場（年間利用者数が、おおむね

1万人以上)の水質の現況を把握するとともに、その結果を公表して住民の利用に資することを目的として、昭和47年度から実施している。

平成24年度は4箇所について、微生物担当、大気・特定化学物質担当及び東部保健所と分担し、遊泳期間前2回、遊泳期間中1回調査を実施した。

#### (ウ) 工場・事業場排水監視調査

水質汚濁防止法及び瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく規制対象工場・事業場の排水監視のため、水質測定を行っている。

平成24年度は、生活環境項目、健康項目等について、延215箇所の事業場排水について、222検体、1,155成分の水質測定を行った。

#### (エ) 廃棄物処理施設等維持管理状況等調査

廃棄物及び清掃に関する法律に基づき県が指導・監督を行っている産業廃棄物処分場等の維持管理指導のため、水質測定を行っている。

平成24年度は、金属等の有害物質を中心に排出される放流水、浸透水及び地下水等について、145検体、2,497成分の水質測定を行った。

#### (オ) 温泉資源監視基礎調査

平成13年度から、温泉資源の現状を把握し、実施してきた保護対策の効果を見守るために県が実施している温泉資源監視基礎調査事業に基づき、実施している。

平成24年度は、温泉資源を保護するために指定した保護地域等において14地点(大分市4、別府市4、日田市1、竹田市1、由布市3、九重町1)の泉源において、年1回、泉温、遊離二酸化炭素等の現地試験や試験室において密度、ナトリウム等の化学成分の試験を14検体、延べ602成分にわたり行った。

#### (カ) その他

測定計画外の公共用水域・地下水の水質調査や土壌汚染対策にかかる調査等の分析を56検体、延べ324成分の検査を行った。

### イ 委託業務検査

#### (ア) 瀬戸内海広域総合水質調査

瀬戸内海全域にわたって、ほぼ同時期に調査を行い瀬戸内海の水質状況を的確に把握するための調査で、環境省の委託を受け、昭和47年度から調査を

行っている。

平成24年度は夏季、冬季の年2回、15地点の表層水、底層水を現地船上において採水、水温等の測定、試験室において生活環境項目、クロロフィル-a、栄養塩類等を延べ60検体、1,036成分の検査を行った。

#### (イ) 化学物質環境実態調査

環境リスクが懸念される化学物質について、特定化学物質の環境中への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律の指定化学物質の指定、その他化学物質による環境リスクに係る施策について検討する際の暴露の可能性について判断するための基礎資料等とするための調査で環境省の委託を受け、平成2年度から調査を行っている。

平成24年度は秋季(11月)1回、大分川河口域の船上で採水、採泥及び水温の現場測定等を行った。また、水中の化学的酸素消費量等の一般項目を1検体10成分、底泥中の硫化物濃度等を3検体36成分、魚類の前処理及び脂質重量等を3検体12成分測定した。

なお、化学物質の分析は、環境省委託分析機関で実施した。

### ウ 依頼検査

#### (ア) 温泉分析

平成24年度は、一般からの依頼により現地試験・試験室試験を4検体168成分にわたり行った。

### エ 調査研究

#### (ア) 大分県における温泉の泉質について

- 鉱泉の定義と分類からみた温泉の地域ごとの特徴 -

平成14年度～平成23年度の分析結果を用い、県内温泉の地域ごとの特徴を利用者、所有者及び行政に提供するために整理した。(詳細は、9 調査研究(2) 調査・事例)(67頁))



表4 平成24年度業務実績（水質担当）

区 分 項 目	検 体 数			成 分 数			
	22年度	23年度	24年度	22年度	23年度	24年度	
総 件 数	1,468	1,383	1,096	17,864	16,761	15,916	
◎行政検査							
測定計画による調査	525	541	552	8,021	8,107	10,004	
海水浴場調査	72	54	36	144	162	72	
事業場監視調査	202	234	222	1,070	1,174	1,155	
産業廃棄物処理施設等維持管理等調査	124	255	145	2,965	3,236	2,497	
温泉分析	中分析試験	12	12	14	492	480	602
	うち飲用試験	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	可燃性ガス測定	1	0	0	1	0	0
その他	252	138	56	1,971	1,195	324	
小 計	1,188	1,234	1,025	14,664	14,354	14,654	
◎委託業務検査							
瀬戸内海広域総合調査	109	116	60	1,577	2,157	1,036	
化学物質環境実態調査	7	7	7	63	63	58	
小 計	116	123	67	1,640	2,220	1,094	
◎依頼検査							
温泉分析	中分析試験	19	5	4	807	166	168
	うち飲用試験	(4)	(0)	(0)	(192)	(0)	(0)
	可燃性ガス測定	2	0	0	2	0	0
小 計	21	5	4	809	166	168	
◎調査研究							
水環境保全に関する研究	143	21	0	751	21	0	
小 計	143	21	0	751	21	0	

## 8

## 研修状況

## (1) 研修生の受入れ状況

研修名	所属	研修生	期間	研修者数	担当
結核菌の研修	福岡県保健環境研究所	村上 光一 大石 明	H24. 4.18	3	微生物担当
レジオネラ属菌検査	大分市保健所	末永 睦美	H24. 5.25 ～ 6. 1	1	微生物担当
食品監視機動班研修 (クドア顕微鏡検査)	保健所食品監視機動班	食品監視機動班職員	H24. 6.15	15	微生物担当
食品監視機動班分析研修 (添加物：漂白剤)	保健所食品監視機動班	食品監視機動班職員	H24. 6.21	6	化学担当
感染症検体送付研修会	保健所食品監視機動班	食品監視機動班職員	H24. 6.21	10	微生物担当
微生物検査実習（食品検査）	食品安全・衛生課	森 仁志 工藤 智子	H24. 7. 2 ～ 7. 6	2	微生物担当
専門学校臨地研修	大分臨床検査技師専門学校	江藤 恭紀	H24. 9. 1 ～ 9.30	1	微生物担当
食品監視機動班分析研修 (動物用医薬品)	保健所食品監視機動班	食品監視機動班職員	H24. 9. 4 H24. 9.11	1 1	化学担当
判田中学校職場体験	大分市立判田中学校	大分市立判田 中学校生徒	H24. 9. 5 ～ 9. 6	4	各担当
コアSSH「教育研究」研修（走査電子 顕微鏡の実習、環境放射能 測定実習）	大分舞鶴高校ほか2校	理科教員等8名	H24.11. 7	8	微生物担当 大気・特定化学物質担当
結核菌の遺伝子解析法に係る技術習得	宮崎県衛生環境研究所	岩切 章 阿波野祥司	H24.12.13 ～12.14	2	微生物担当
平成24年度第2回保健所等検査技師研修会	保健所等臨床検査技師	保健所等 臨床検査技師	H25. 2.22	18	微生物担当
新任期現場研修 (微生物担当業務について)	豊肥保健所	木下 優稀	H25. 3. 7	1	微生物担当

## (2) 研修生派遣状況

研修内容	派遣先	派遣職員		期間
		所属	氏名	
ゆうパック検体送付研修会	九州厚生局	微生物担当	緒方喜久代 加藤 聖紀	H24. 4.13
平成24年度と畜・食鳥検査担当者 会議及び食肉衛生研修会	大分市保健所	微生物担当	成松 浩志	H24. 6. 1
環境放射能研修 (環境放射能分析・測定の入門)	財団法人分析センター	大気・特定化学物質担当	岡本 英子	H24. 5.28～ 6. 1
Agilent7890GC/5975オペレーション 基礎及びメンテナンス基礎	新川電機株式会社 分析カスタマセンター	大気・特定化学物質担当	安東 大悟	H24. 5.29～ 6. 1
GC/MS ビギナーコース	日本電子株式会社	大気・特定化学物質担当	安東 大悟	H24. 6. 7
機器分析研修 (Aコース)	環境省環境調査研修所	化学担当	林 由美	H24. 6.14～ 6.29
機器分析研修 (Bコース)	環境省環境調査研修所	大気・特定化学物質担当	酒盛 早美	H24. 6.14～ 6.29
全有機体炭素計のメンテナンス講習会	㈱島津製作所九州支店	水質担当	佐藤 洋子	H24. 7.24
高病原性鳥インフルエンザウイルス (H5N1) 同定技術研修会	国立感染症研究所	微生物担当	加藤 聖紀	H24. 9. 5～ 9. 7
ウイルス研修	国立保健医療科学院	微生物担当	本田 顕子	H24.10. 1～10.19
地方感染症情報センター担当者向け ブロック疫学研修会	福岡市保健環境研究所	微生物担当	田中 幸代	H24.10. 4
結核菌分子疫学情報データベース構築会議	福岡市保健環境研究所	微生物担当	成松 浩志	H24.10. 5
全国疫学情報ネットワーク構築会議	東京都健康安全研究センター	微生物担当	加藤 聖紀	H24.10.18
廃棄物研修	環境省環境調査研修所	水質担当	佐藤 洋子	H24.10.29～11. 9
高速液体クロマトグラフ入門講習会	㈱島津総合分析試験センター	水質担当	伊藤 豊信	H24.11.15～11.16
水質分析コース (Cコース)	環境省環境調査研修所	水質担当	伊藤 豊信	H24.11.29～12.14
平成24年度残留農薬等研修会	食品衛生センター	化学担当	橋口 祥子	H24.12.12
ダイオキシン分析研修 (専門課程)	環境省環境調査研修所	大気・特定化学物質担当	岡本 英子	H25. 1.21～ 2. 8
九州ブロックリケッチャ症検査診断研修会	福岡市保健環境研究所	微生物担当	加藤 聖紀	H25. 1.17～ 1.18
ピペットマン修理入門講習会	エムエス機器株式会社 (大阪市)	微生物担当	小河 正雄	H25. 2. 5
カビと食品衛生研修会	福岡市保健環境研究所	微生物担当	加藤 聖紀	H25. 2.14～ 2.15